

## なまろーど

The Name Read

ホームページアドレス  
http://www.ranshokai.jpE-mailアドレス  
info@ranshokai.jp発行所 高岡教区寺族青年会  
住所 〒933-0878  
高岡市東上関466  
西本願寺高岡会館内  
発行人 福田 慶隆  
編集者 広報部  
発行日 2020年3月31日

## 会長挨拶

鸞翔会

第二十三代会長 福田 慶隆



日頃より寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また各行事にて法要出勤や雅楽など活動の場をいただいておりますこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、年が明けてから新型肺炎が海を渡り世界中で猛威を奮っています。日本においても全国一斉休校の要請が出されるなど、前代未聞の事態に。その中で聞こえてきた声の一つに、「決断が遅い」という声がありました。

今回の事態に限らず、グローバル化した現代においては、あらゆる面で決断のスピードが求められています。ただその一方で、今回の一斉休校の際に聞こえてきたもう一つの声は、「唐突過ぎる」という戸惑いの声でもありました。様々な立場の方がいる中で、物事を決めていくことの難しさと共に、ややもすると人に向き合うことをなおざりにしてしまう人間の危うさも感じます。

私たち寺族青年会「鸞翔会」の「鸞」は、親鸞聖人の「鸞」であると共に、中国の想像上の鳥「鸞鳥」の「鸞」でもあります。以前この鸞の鳥について法話の中で聞いたことがあります。

親の鸞がまばゆいほどに美しい姿であるのに対し、子の鸞は親とは違い、体が真っ黒。ですから親鳥の鸞が子であるヒナ鳥にエサを与えようとしても、ヒナ鳥はその姿の違いに驚いて逃げまどい、エサを食べようとしません。悩んだ親鳥は、真っ黒な泥沼に自らを沈め、その美しい姿を真っ黒にし、ヒナ鳥と同じ姿になることでエサを与えたそうです。親鳥の向き合おうとする姿が仏の姿に譬えられるお話です。

私はこの親鳥の姿勢が、きっと鸞翔会の名前にも込められているのだと思います。自分と姿は違っても、どこまでも相手に向き合っていくこととする鸞の姿。私たち鸞翔会も皆が全く同じ姿、同じ立場ではありません。会員一人一人がそれぞれの状況の中でこの寺青活動に参加してくれています。ですから意見が多様で当たり前。一つのことを進めていくときには中々まとまらないことだってあります。それでも、一つ一つの声を大切に、皆で向き合い、皆で考えていくのが、目指すべき鸞翔会のスタイルだと先輩方の姿勢を通して受け止めてきました。

来年度にはいよいよ浄青僧全国大会を鸞翔会が担当させていただきます

す。前回の担当から十二年ぶりということで、当時のことを知る会員もごくわずか。手探りの状況ながら、現在は大会テーマについて話し合っている真っ最中です。興味があること、やりたいこと、伝えたいこと。皆思いは様々です。その思いを如何にして一つのテーマという形にしていくか。積んでは崩し、積んでは崩しの繰り返し。行き詰まってしまうこともしばしばです。時間をかけず、単純にパッと決めてしまうのも一つの方法かもしれません。

ですが、このような中でこそ鸞翔会スタイルを忘れないようにしていきたいと思っています。一つ一つの声を大切に。ねばり強く、共に向き合い、共に悩み、共に歩んでいくのが私たち鸞翔会です。

とはいえ、まだまだ未熟で不器用な青年たちの集まりです。そのスタイルを目指しながらも、矛盾にはらみ、空回りすることもあるのが現実かもしれません。会では、サークル活動はじめ、色んな形のコミュニケーションが広がっているのもありがたいことです。明るく楽しい色んなつながりがある中で、鸞翔会らしい豊かな人間関係が生まれるのだと思います。

この鸞翔会の輪を、教区の寺族青年の方々と共に、より広げていければと願っています。皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご助言を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

# 井波別院永代経出勤

令和元年七月二十四日

新湊組 常川 正智

七月二十四日に井波別院永代経法要への出勤がありました。お勤めは宗祖讃仰作法で、寺族青年会から内陣出勤が七人、楽人として一人出勤することになりました。

私は二〇一七年に初めて出勤させていただき、今回が二回目の出勤になります。寺青の出勤の時は毎年違ってお勤めで、尚且つ難しい作法の法要になるので、本番で作法を間違えないか、自分だけ音を外さないかと戦々恐々としておりました。

出勤前に何回か教務所と別院で習礼がありました。しかし、依経段の後半部分や二回目の念仏等の音がいまいち揃わず、毎回微妙な空気が漂っている習礼が続きました。正直何とかなるだろうと思っていた私にとっては不安を残したままの出勤になりました。

当日は暑い日にもかかわらず本堂にはたくさんの方がお参りに来ていました。出勤するたびに思うのですが、暑い中來られる姿には大変頭が下がる思いです。

お勤めの方は習礼の時に比べたら音はとても良くあっていたと、後で感想が出勤者の中から出たので、やはり本番に強いのが寺族青年会なんだと感じました。来年もまた研鑽を積んで出勤できればなと思います。



# 第一回 寺青連研

令和元年九月五日

射水組 青雲 乗峻

令和元年九月五日、「発達障害とは何か？」をテーマにした研修会に参加させていただきました。近年、発達障害と診断される方は世界的に増加傾向にあるそうです。研修のねらいは、その正しい知識を身につけ、理解を深めることにありました。

そこで、氷見市や高岡市を中心に、障がい者福祉活動を進めておられる石川真一さん(NPO法人ロシナンテ代表)をご講師に招き、講演をしていただきました。講演では、自閉症の男の子の登場する落語を用いた講座を受け、そのあとで発達障害のある方の脳の仕組みや具体的な支援方法についてのお話を聴くことができました。

今回私が印象に残ったのは、私たちが普段用いる「言葉」というものは抽象的な概念に過ぎないということです。自閉症の方にとって、「言葉」は非常に曖昧でわかりづらいものであり、そのことに対する私たちの認識の欠如が、彼らとのコミュニケーションを複雑にする原因であるということを知りました。言葉ではなく、目に見えるもの、つまり絵やジェスチャーを用いたコミュニケーションを図る等の工夫が大切であると学ばせていただきました。

発達障害には他にもいくつかの種類があるそうです。私たちに求められることは、それぞれの障害に対する理解、そして個性に応じた配慮だと思います。障害の有無を問わず、すべての人の違いを理解・尊重しながら共に生きていくという態度が仏教徒として大切だと感じます。今回の研修は私にとって貴重なものとなりました。





# ねつと輪くく 2019

令和元年九月八日

新湊組 池内将貴

九月八日、「ねつと輪くく」が開催されました。すでにご存じの方も多いと思いますが、「ねつと輪くく」とは、寺青が日頃お付き合いのある県西部の福祉作業所の方々と交流を深める行事です。途中から隔年開催となりましたが、数十年にわたって開催されてきたと聞いています。

今年度は、四か所の福祉作業所様が参加をして下さいました。皆で勤行をした後、ジュースや菓子をつまみながら作業所の利用者の方々、職員の方々と談笑させて頂きました。

また、寺青から所属サークルによる活動紹介が行われ、勤式サークルによる雅楽演奏、手話サークルによる「恩徳讃」の手話コーラスが披露されました。

作業所の皆さん、私たち寺青会員・

OBでゲーム対決もしました。会員の射水さんが用意して下さいました果物や野菜の絵柄が描かれたカードを使った神経衰弱ゲームです。私たちが想像していた以上に白熱して盛り上がり、皆さんとても楽しんで下さっていたように思いますし、私も楽しかったです。

この行事が今後も継続して行われ、交流を一層深めていく機会になることを願います。



# ふるこはんフェス

令和元年九月二十九日

射水組 公文名 智

今年度も寺青OB・OGの方々をはじめ、多くの方々のご協力のもと『ふるこはんフェス』を開催させて頂きました。当日は天候にも恵まれ、小さい子から年配の方まで幅広い世代の方々一堂に集う素晴らしいイベントになったと思います。坊主カフェ&バー「LOTS」の賑わいは言うまでもなく、満堂となった音楽法要、そして今回新たに企画したミニ法話の成功は今後の活動に繋がる大きな一歩になったと思います。

坊主が袈裟を着て、何かをするだけで世間の方々は注目してくれるような気がしています（勘違いかもしれませんが）。多くの方と触れ合うことができた坊主カフェ&バーは、まさに「坊主×○○」の典型です。そんな中、我々僧侶が普段から大事にしている（はずの）法要と法話。その評判がすこぶる良かった事が何よりも嬉しいことでした。

さて、勝興寺を取り巻く問題と、私たちの今回の活動が無関係であるとは考えていません。激励の声とともに色々なご批判もいただきました。次回の開催があるのかないのか、我々も参加するのかわからないのか、まだ未定で



あります。ただ、今回の活動は、内に籠らず社会との関わりの中で学びを深めていく、「鸞翔会本来のあり方」に立ち返る良い機会となりました。また、「久しぶりに勝興寺の賑わいを見られて嬉しい。懐かしい。」という声。来場者の皆さんの笑顔。活き活きとした僧侶の姿。これは大事にしていきたいと思いました。

様々なご意見をまたお聞かせください。よろしくお願い致します。

## 実践運動研修会

令和元年十二月十四日

糸岡組 初瀬部 真亮

去る十二月十四日、西本願寺高岡会館において、寺族青年実践運動研修会が開催されました。テーマを「老病死の現実から『ビハラー活動を通して』と題し、川上組瑞泉寺のご住職である杉谷淳志さんにお話をいただきました。

問題提起では、ビハラー運動の理念を確認される中で、聖徳太子が建てられた四天王寺の「四箇院の制」(敬田院・施薬院・療病院・悲田院)を例に、当時の寺院が医療や介護などの社会福祉と密接な関係を持っており、本来寺院は総合的な意味で命向き合う施設ではなかったかとお話しされました。また、トータルペインと言われる終末期患者が抱える四つの苦痛(身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペイン)とその緩和ケアについて説明され、ここに現代における宗教と医療が共生していく場があるのではないかとお話しされました。

今回の研修では、ご講師自身が入院された際の体験や、ビハラー活動を通しての様々なお話をいただきました。印象的だったのは、「命の問題に直面している人に対して僧侶はどう向き合っていけばよいのか」ということを考えた時に、むしろ僧侶という私の立場や仏教的知識がお互いの関係性の壁になること

があるというお話でした。それは、現実には死に直面している人の思いに対し、衣と専門知識だけで応えようとする僧侶の姿勢が問われているということではないでしょうか。時には私たちは立場を置き、一人の人間として向き合っていくことが大切なかもしれません。

老病死という現実がある中で、その苦悩にどう向き合い共感していけるのかということは簡単なことではないと思います。しかしそこを離れた仏教も、また本来の姿ではないはずで、ビハラーの精神に学ばせていただく中で、今一度僧侶としての自分自身の足元を確認し、人々の苦悩に寄り添うとはどういうことなのか、考え続けて参りたいと思います。



## 本山総参拝

令和二年一月二十八日

糸岡組 奥 高 瑞 貴

去る二〇二〇年一月二十八日(火)に、ご本山本願寺に於いて広島青年僧侶春秋会主催による本山総参拝並びに研修会を全国各地の若手僧侶と共に開催を致しました。

開会式はご門主さまご臨席の元、本願寺御影堂にて行われ、勤行の讃仏偈で大学時代の友人が調声を務め、懐かしさと刺激を受けました。



その後、会場を安穩殿に移した研修会では、仏さまの価値観を表す「Bud dhaI Scale」をテーマに掲げ、異なる価値観との出会いにより自己の価値観を問う事を目的とした研修会が行われました。ご講師には、子供達を取り巻く諸問題、とりわけ発達障害や障害者福祉に関する研究者である白井正久氏と、本願寺派布教使(布教使課程専任講師)花岡静人氏をお招きし、現実問題の面からは子供たちの願いを、ご法義の面からは仏さまの願いを課題として学びを頂きました。

リーガロイヤルホテル京都での懇親会では、参加型の体を張った余興が用意され、体を使いながら楽しむ事が出来、普段話すことのない他教区の僧侶や久しぶりに会う友人と様々な意見交換をし、多くの刺激と学びを得る場となりました。

個人的には、六月に大阪で開催されます「浄青僧フットサル大会」での優勝カップ奪還をひしひしと狙っております。大会に向けて練習も行いますので、興味のある方は一緒にフットサルを楽しみましょう。

最後に、この度の浄青僧本山総参拝に参加させて頂き、多くの刺激と学びを得る事が出来ました。本当に感謝しております。学んだことを鸞翔会の活動に繋げていきたいと思っておりますので、これからも宜しくお願い致します。



## レクリエーション

令和二年三月一日

糸岡組 平野 俊

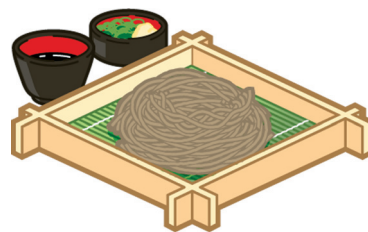
来年の二月に高岡教区主催の浄青僧の全国大会が控えており、成功させる為にも会員同士やOB・OGの方と少しでも親交を深めたいという思いから企画をしました。

そして三月一日、西養寺様のお借りし、寺青レクリエーション「蕎麦懐石と日本酒を嗜む会」が高岡市「鶴川」のご協力の元、開催されました。

当日は十三名に参加していただきました。皆さん一人ずつオスメの日本酒を持ち寄り、美味しい料理に舌鼓をうちながら、賑やかな会となりました。私自身、普段なかなか飲めない日本酒の味比べには感動を覚えました。そして久しぶりにお会いした方や普段あまり一緒に食事をしない方とゆっくりお話もでき有意義な時間を過ごせたと感じております。

今後ともぜひ寺青の行事、レクリエーション等の参加をよろしくお願い致します。

なお場所の提供から会場設営等を準備して下さった西養寺様、お料理を作って下さった鶴川様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。





## 蓮花の会

代表 水上 法恵

蓮花の会は、例年会員の方々とのお交流を主として活動してきました。

今年はおはるこはんフェスのお手伝いとして音楽法要で撒く「華葩」を、寺青の会員の方やその奥様と一緒に作らせていただきました。代表として不甲斐ないですが、当日のお手伝いは出来ませんでしたでしたが盛況だったとお聞きして嬉しく思います。また、今年新規会員募集のチラシを雲光寺住職の宮原和香さんのタイ画を提供いただいて、作成しました。

なかなかどのような活動をしているかわからないと思われる蓮花の会ですが、この二つの活動で、興味を持っていただけたのではないのでしょうか？

寺青会員の方、奥様の新規会員お待ちしております。

## 手話サークル

代表 射水 梓

手話サークルでは通年、脇坂菊雄さんをご講師に迎え月に一回程度手話の練習を行っています。しかし今年度はなかなか練習の機会を持つことができませんでした。

そんな中、昨年九月八日に開催された「ねっと輪くく」では「恩徳讃」の手話コーラスを披露させていただきました。

現在練習に参加することのできている現役会員は代表一人となっております、現状に危機感を感じています。

今後の手話サークルの練習日は未定ですが、手話未経験の方でも自己紹介などから勉強することもできます。また、この歌を手話コーラスでやってみたいといった希望を取り入れながら手話の練習をすることもできます。

これから手話を始めてみたいと思われる方は、まずは一度見学からでもご参加いただければと思います。

ご都合のよい日をお知らせいただければ併せて練習日を設定することも可能です。

また、練習の予定などお知らせいたしますので、ご興味を持たれた方は伏木光西寺射水までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

## 勤式サークル

代表 麻生 裕善

基本的な活動といたしましては、月一回程度、参加会員のお寺を宿とさせていただきます、練習会を開催しております。雅楽の練習会では寺青OBお二人の方に指導をお願いし、既存の楽目から童謡など幅広く練習しています。

今年度は第一回目に引き続き「ふるこはんフェス」に参加し、音楽法要、坊主カフェ&バー「LOTUS」にて披露をさせていただきました。前回に

比べ参加者の数も多く、緊張しましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。またそれ以外にも、法要のお手伝いであったり、会員が独自に企画した行事等にも参加しました。自分自身未経験から始め、まだまだ下手くそですが、参加会員のおかげで、普段では味わえない貴重な経験をさせてもらっています。

経験の有無は問いません。一緒に雅楽をしませんか。連絡をお待ちしております。

## フットサルサークル

代表 麻生 裕善

去る浄土真宗青年僧侶連絡協議会(以下 浄青僧)フットサル全国福岡

大会は、残念ながら最下位に終わってしまいました。我がが鸞翔会LOTUSは過去優勝三回、大会のたびに優勝候補として名を連ねてきましたが、近年は予選敗退が続き、決勝トーナメントにも進めないといった状況が続いています。

この全国大会の一番の目的は全国の浄青僧加盟団体が集まり、会員同士それぞれが意見や情報交換をし合い、懇親を深めることとあります。だからといって負けてばかりでは面白くありません。

今回の浄青僧フットサル全国大会はこの度、この浄青僧に加盟された「大阪友の会」主催となり、六月十八日に大阪にて開催という運びとなりました。一番の目的は全国の僧侶たちとの懇親を深めることとありますが、大会においては一勝でも多く、またより楽しく仲間と汗をかけるようなチーム作りを心がけて、大会に向けて練習日を設定していきますので、お忙しいとは思いますが、何卒ご参加いただきたいと思っております。

尚メンバーは現寺青メンバーからOBの方も参加しています。年代を超えて普段会えないような先輩方、また後輩たちと交流できることは、非常に大きな魅力だと思っています。ほとんどが未経験から始めています。ですので、未経験者の方、寺青には入っていない方も少しでも興味がある方はご一報ください。

## 退会の言葉



### 新湊組 覚円寺 青木 哲隆さん

京都での七年半の学生生活を終え、富山に戻ってきたのが十五年前です。帰ってきて間もなく、知らぬ間に鸞翔会に入会させられ、組の役員になっていました。当初、会に出向くのも腰が重く、先輩方にはご迷惑をおかけしました。そんな私が、当会の二十一代目の会長を務めさせていただいたので驚きです。思い出は語り尽くせませんが、共に学び、悩み、遊ぶ仲間ができたことが何よりの財産です。鸞翔会の魅力をもっともっと多くの方に知ってほしいし、青年僧侶の方は是非、入会してほしいと思います。ハワイ・台湾・北海道・東京・広島…などなど。楽しかったなあ。今年で卒業ですが、みんな！これからも色々誘ってよ～！これからの鸞翔会が、現代社会にどうアプローチしていくのか？期待しています。

本当にありがとう！



### 五位組 西福寺 豊原 正靖さん

最近体調が悪く巷で流行しているウイルスと何か関係があるのかと不安になってたところ、正式にお医者様から花粉症の認定を頂きました豊原です。

私なんかは一年の半分ぐらいは風邪気味です。そのうち二回ほど四十度を超える熱が出ます。その度に妻の舌打ちが聞こえますが、仕方ありません。体が弱いんだもの。

ですので、体とメンタルとお酒に弱い事を理由に寺青の活動にほぼ参加してません。参加していないから皆さんの顔と名前が一致しないわけ。たまに気まぐれで参加した時は今更名前を聞くのも恥ずかしいし最後まで知っている風で押し倒す。んで、次会った時なんて、もう絶対聞けないよね。だってそこであの？

お名前は？なんて聞いたら、え？こいつこの前話した時知ってますけど的な顔してたじゃん！って絶対思うでしょ。そんな負のスパイラルに陥ってもう抜け出せません。皆さんごめんね。名前覚える前にもう退会になっちゃった。

でも凄いなあって思うのがそんな私の名前を知っている人がいるわけ。たまにしか参加してないのに豊原さんって呼んでくれるの。こっちがビックリするからね。何で知ってんだって。優しいじゃない。嬉しいじゃないの。そんな優しさに包まれた皆さんともう会えないと思うと涙と鼻水でいっぱいです。

あ。これ花粉症だわ。



### 射水組 浄立寺 草野 雅信さん

私が京都から富山に戻ってきたのが二十四歳。寺青から案内が届き、後輩ですが中仏で先輩だった耳浦君に「寺青ちゃ何け？あんた入るとるが？」と連絡したのを覚えています。耳浦君は、「入ってますよ。楽しいです。」のようなニュアンスで教えてくれたので、「なら行ってみるか」が始まり。京都では同世代の寺の友人が居ましたが、地元には居なかったのも、同世代の方と繋がりがなかったんだと思います。お陰様で、僧侶として生きて行く上での良き相談相手や友人がたくさんでき、私にとって心強いネットワークであり、かけがえのないものとなりました。兼業坊主でありながら、「ダーナバザー」の実行委員長をさせていただけたのも、支えてくれる仲間がいたからですし、私の中での一番の思い出です。本当に入会して

良かったと思います。出会いに感謝です。

最後になりますが、長い間お世話になった寺青の益々のご発展と末永く存続していくこと、たくさんの会員が入会されますことを強く念願致しまして、退会の挨拶とさせていただきます。有難うございました。



### 若神組 常称寺 永森 知也さん

ありがとうございました。

たくさんのご縁をいただき楽しかったです。



## 新入会員の紹介



### 水波組 西養寺 村上 潤也さん

この度、令和元年度、寺族青年会に入会させていただきました。

会員の方々の活発な活躍を拝見して、浅学非才の私にとって勉強させていただく日々であります。

諸先輩方の長年のご活躍に敬意を表すと共に、私としても皆様と共感していけるような仏教の在り方を模索し、活動をしていきたいと思っております。

昨年は日本列島各地が、自然災害に見舞われ、多くの人々が日常生活をまともに送ることが出来なくなっています。一会員として何か出来ることはないかと、自問自答しているところであります。

入会して身の引き締まる思いではありますが、今後とも優しい先輩の方々のご指導・ご鞭撻のほど、よろしくおねがいします。



新入会員募集

寺族青年会(鸞翔会)では随時新入会員を募集しています。気軽に参加しませんか。



ホームページ随時更新中!!



<http://www.ranshokai.jp>

法輪せんべいのご案内

平素より法輪せんべいをご最買いただきありがとうございます。法輪せんべいは、射水市の萬松堂本舗さんで、一枚一枚丁寧に手焼きされ、袋詰めされています。味は上品な甘さで、硬さもちょうど良く、お茶はもちろんコーヒーや紅茶にもよく合います。お好みでモナカのようにアイスクリームやあんこ、生クリーム等を挟んでもおいしくいただけるかと思えます。食べたことのない方は是非一度ご賞味いただければ、と思えます。一袋二枚入りとなっております、法要時のお供え、来寺の御門徒さんへのお茶菓子、お茶請けにも最適です。

先に案内いたしました通り、長年、法輪せんべいの価格維持につとめてまいりましたが、昨年の消費増税や原材料価格の高騰により、現在の価格を維持することが困難になりました。会員と相談の上、大変心苦しいのですが、値上げをさせていただきますこととなりました。

この法輪せんべいの収益金は、当会活動費の他、様々な社会活動への寄付や資金に充てられております。

この度、値上げということになりましたが、これまでと変わらぬご理解とご協力のほど、よろしく申し上げます。



【価格変更は以下の通りです】

	変更前	変更後
特大(170袋入)	8,300円	10,000円
バラ(1組10袋入)	500円	600円

※1組は、桜色5袋・若草色5袋単位での販売です

お申し込み、お問い合わせは  
代表番号 050-5587-7708  
アドレスはhourin18@gmail.com

編集後記

何とか無事に、「なまもろーど四十五号」を発刊することができました。ひとまずホッとしています。ご協力いただきました方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。新体制となって早一年。福田会長のもと、会員は今日もどこかで忙しく鸞翔会のための活動をしていることでしょうか。今年もたくさんの方の行事がありました。辛いこと、面倒だと思っても少なくともありません。しかし、そのどれもがとても大切で、その中で自分自身の成長のようなものが見えたりもします。

鸞翔会は、僧侶としての横の繋がりが、あるというだけでなく、ただの気の許せる友人として、遊び、飲んで、騒いで、楽しみ笑いあう環境であるということも忘れてはいけません。

来年はビッグイベント「浄青僧全国大会」が私たち鸞翔会主催で開催されます。今まで以上に過酷な一年になることでしょうか。しかし、これまで何とかやってきた私たちです。今度も私たちが無事成功させることができると信じています。皆様には何卒ご協力のほどお願い申し上げます。準備に追われるその中でも、隙を見て楽しみながらやっていきましょう。来年度以降も皆様とともに様々な課題に取り組み、共有しながら、実りある一年になることを念じます。